



くまがみね

学校だより
2023 (令和5) 年10月2日
福山市立熊野小学校

家庭学習のあり方 ～ 全員一律の「宿題」は必要なのだろうか？ ～

「宿題がない学校」にしたらどうなるだろう？と最近よく考えています。

学校で先生が全員一律に出す「宿題」は、これからの時代を生きていく子どもたちにとって、どれだけの効果があるのだろうかと思います。社会の変化に伴い、従来のビジネスモデルが通用しなくなった。育てる人材像も変わってきている。自分で考え、自己決定できる人材が求められています。これまでのような与え続ける教育では、このような人材は育ちません。

しかしながら、現時点で「宿題」をなくした場合、自分で考えた勉強は何もしない、テレビを見たりゲームをしたりするだけ、学習習慣がつかない、学力がつかないなど、デメリットばかりが予想されます。

家庭学習は必要だと思います。何をどのように学習するのかを、子ども自身が考えて、自ら進んで家庭学習に取り組むことが理想なのでしょう。しかし、現実にはそれができないから全員一律の「宿題」があるのだと思います。

そして、宿題が必要かどうかは、授業づくりと表裏一体の関係にあります。「子ども主体の学び」の授業ができていれば、宿題があってもなくても、自分で考えた家庭学習ができるようになるはずで、逆に言えば、「子ども主体の学び」の授業が実現しない限り、宿題はいつまでも出し続けられるでしょう。宿題がなしになれば、子どもたちが困らないようにするために、どのような授業をすればよいのか工夫していく必要感が生まれるのかもしれませんが。

日本では明治維新から150年間、教師側の立場から教育を考えてきました。何を教えて(カリキュラム)、どう教えるか(教え方)に主眼が置かれました。これからの時代は、学ぶ側の立場から教育を考えていく。すなわち、何を学んで(カリキュラム)、どう学ぶか(学び方)に先生が意識を変えなければなりません。

しかし、この意識変革がいかに難しいか。学習活動において、もっと「子どもに任せる」場面があってもよいのですが、それがなかなかできない。特に小学校はその傾向が強いのですが、子どもに失敗をさせないように、先生が学習過程や活動において準備をし過ぎることが多いです。これでは子どもが自律できません。

「宿題」を強制しなくても自分から進んで家庭学習に取り組むことができる。そのような自律した子どもを育てるために、学校では、「子ども主体の学び」を実現する授業づくりを今後も模索していきます。近い将来、「宿題がない学校」が実現できればと思っています。

保護者のみなさまはどう思われますか。ご意見、ご感想があればお聞かせください。



至誠想青ブロック親善球技大会 ご協力いただきありがとうございました

9月24日(日)至誠中学校において、球技大会が行われました。「ペタンク」「ソフトバレーボール」「ソフトボール」の3種目に分かれ、練習の成果を発揮してゲームを楽しむことができました。ソフトボールの試合では3位決定戦で、逆転サヨナラ勝ちという劇的な試合になりました。

参加して下さった選手のみなさま、お世話をしてくださったPTA役員のみなさま、ありがとうございました。

校長室も学びの場に「校長先生に挑戦！」コーナーより

校長室前の「校長先生に挑戦！」コーナー。

10月は「寿限無」の暗唱が課題です。「寿限無」(じゅげむ)は、落語の代表的な前座噺。

長い名前を言い立てる早口言葉で知られています。

生まれた子どもが、いつまでも元気で長生きできるようにと考えて、

とにかく「長い」ものが良いととんでもない名前を付けた、という笑い話です。

このコーナーも、子どもたちにかかなり浸透してきたようで、合格すると「次は何?」「早くやりたい」という声も聞こえるようになりました。うれしいですね。今月も、たくさんのお子たちに合格してほしいです。

